

とちりハ通信

とちぎリハビリテーションセンター

もくじ

- ◆所長就任にあたって 1
- ◆各部の近況
看護の日「ふれあい看護体験」 2
高次脳機能障害相談支援研修を開催しました ... 2
- ◆連載 2~3
検査科より（第1回）
検査科だよりVol.1
診療部より（第1回）
発達障害について ~小児科~
- ◆インフォメーション 4



第43号 2013.Sep

所長就任にあたって

所長就任にあたりましてご挨拶をさせていただきます。

当センターは、心身に障害のある乳幼児から高齢者に至るまで幅広い年齢層に対応しており、主に障害児医療と回復期リハビリテーション医療を受け持つ「リハビリテーション病院」、相談・判定機関である「障害者総合相談所」、児童福祉施設である「こども発達支援センター」、「こども療育センター」及び指定障害者支援施設である「駒生園」で構成された複合施設です。

平成13年9月1日に開設され、その後、平成17年7月に発達障害者等への総合的な支援のための「発達障害者支援センター（ふおーゆう）」を開設し、平成22年4月には高次脳機能障害支援拠点機関を設置し、相談支援や地域支援等を実施しています。

当センターでは基本方針を、①心身に障害を有する人々に対して、ライフステージに応じ、適時・適切なリハビリテーションを最良の方法で提供すること ②リハビリテーションの提供にあたっては、身体的にも、精神的にも、社会的にも自立が図れるよう、社会・教育・就職といった各分野との連携を図ること ③1日も早く家庭や職場等に復帰ができるよう、短期・集中型のリハビリテーションを実施すること ④障害を有する人々が、身近な地域において継続的・効果的なリハビリテーションが受けられるよう、地域リハビリテーションに係る支援を図ることとしています。

また、平成25年度から「健康日本21（第2次）」運動が国策として開始され、その柱の一つとして「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」が目標として設定されました。これを達成するための数値目標の一つに「ロコモティブシンドローム」を10年後には国民の80%が認知していること、が挙げられています。この「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」は平成19年秋に日本整形外科学会が世界で初めて提唱した概念です。意味するところは「運動器の障害によって、介護・介助が必要な状態になっていたり、そうなるリスクの高くなっていたりする状態」です。65歳以上の高齢者が3,000万人を超えた我が国では、高齢者の運動機能の維持・向上は喫緊の課題です。ロコモ啓発活動を積極的に展開することは、当センターが担当すべき新しい使命の一つであろうと考えています。

とちぎリハビリテーションセンターは、福祉から医療までのさまざまな部門を持つ複合施設であることのメリットを最大限に活かし、総合的なリハビリテーションを提供する県内中核機関としての役割を果たしていきたいと考えております。今後とも県民の皆様の当センターに寄せる期待に応えられるよう、センター全体で事業展開を図ってまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



星野雄一所長

◆各部の近況 -各部の実施した行事、イベントなどをお伝えします-



看護の日「ふれあい看護体験」

5月12日は、看護の日です。「近代看護の母」と呼ばれるフローレンス・ナイチンゲールが生まれた日が1820年5月12日であることから、ICN（国際看護協会）は5月12日を「国際看護師の日」と定めています。日本においては厚生労働省より高齢化社会を支えていくため



に、国民一人ひとりに看護の心・助け合いの心が育つきっかけとなるよう、1990年に「看護の日」と「看護週間（5月12日を含む1週間）」が制定されました。“看護の心をみんなの心に”をメインテーマに日本看護協会を中心に全国各地で様々なイベントが開催されました。

今回、当センターでは6月5日に高校生19名を対象にふれあい看護体験を実施しました。制服から白衣に着替え、星野所長から1日看護師を委嘱され、各部署において患者さんとのコミュニケーション、脈拍測定、血圧測定、車いす操作などを体験しました。

体験後の感想から

- ・施設の子どもたちが笑顔で、一生懸命に生きている姿をみて、心が元気づけられました。
- ・所長のお話の中で、「患者さんは、どこかに痛みを感じています。それは身体だったり、お腹だったり、こころだったり。それらを癒やしてあげてください」とあり、私はその言葉を聞いて、ますます看護師になりたいと思いました。



参加した高校生は、漠然とした憧れではなく、キャリアとして看護師や介護福祉士等を目指していました。看護職の仕事でのかけがえのない経験や、プロとしての知識・技術は「人間としてのキャリア」になり、いのちを守る責任と誇りが、自身の人生を充実させ、力強く生きていく力になります。

リハセンターの看護師は、参加した高校生の「看護職になる」という目標を応援しています。

夢にむかってがんばれ！

高次脳機能障害相談支援研修を開催しました



高次脳機能障害についての基本的理解を深めるため、平成25年7月5日（金）、とちぎ健康の森大会議室にて相談支援研修を開催しました。今回は、国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科講師で精神科医の穴水幸子氏をお招きし、午前中は「高次脳機能障害とともに地域で暮らすために～病態の理解～」をテーマに講話をいただきました。脳の障害を自然現象にたとえたわかりやすい話と、脳の映像を使用した様々な症状についての説明がありました。



午後は、相談支援のポイントをグループワークで意見交換し、神経心理学的検査を体験するなど参加型の内容でした。当日は、市町や相談支援事業所などから53名の参加があり、「脳のどの部分のダメージでどんな障害がでるのかわかった」「他の方と意見交換できて大変参考になった」「見えない障害だけに、検査がたくさんあることにおどろいた」等の感想が寄せられました。今後も相談支援の充実を図るために、同研修を毎年開催していく予定です。

◆連載 (今号から新たなシリーズの連載をはじめます。)

検査科より (第1回)

○検査科だより Vol.1

リハセンター受付前の廊下をまっすぐ進んで行くと、トイレの隣の扉にとちまるくんのこんなポスターが貼ってあるのを見たことがありますか。中で



眠っているおともだちは何をやっているのでしょうか。

ここは検査科脳波検査室です。扉を開けるとシールドルームという小さな部屋があります。その中のベッドでおともだちは脳波検査をしているのです。では脳波検査とはどんな検査なのでしょう。脳はその活動にともなって常に微弱な電波を出し続けており、それは頭の表皮上におけるわずかな電位差（電流は電位の高いほうから低いほうへ流れる）となってあらわれます。その電気的な変動を頭部に付けた電極でとらえ、増幅し、波形として記録するのが脳波検査です。それでは脳波検査で何がわかるのでしょうか。けいれんを起こしたとき、意識障害がみられるとき、症状には出ない軽い意識障害をみつけようとするとき、てんかんが疑われるときなどに行われ、脳死判定の際にも用いられています。普通は頭部CT検査や頭部MRI検査などの結果とあわせて診断され、脳腫瘍やけがによる脳障害（脳挫傷）であればCTに映りますが、真正てんかんであればCTに異常はみられません。脳出血や脳梗塞ではCT検査などで十分に診断がつくので、脳波検査が行なわれることはほとんどありません。

さあ、脳波検査です。扉の中のシールドルームは電氣的に遮断された部屋です。ベッドに仰向けに寝て、写真のミッフィーちゃんのように頭に十数個の電極をペースト（糊）で取り付けます。同じく両耳にも取り付けます。また、両手には心電図の電極を装着します。写真のぞうさんのように目をつぶって横になり安静にします。子どもの場合は睡眠中の脳波を測定することが多く、光や音の刺激を与えることもあります。成人の場合は、光や音の刺激に加えて、目を開いたとき、目を閉じたとき、深呼吸をしたときなどの脳波を調べます。検査時間は準備を含めて約30分です。検査だけなら通院で受けられます。



脳波室の「なかのおともだち」は眠っていないと検査ができません。このポスターを見かけたら「しずかにしてね。」とちまる臨床検査技師からのお願いです。

診療部より（第1回）

○発達障害について ～小児科～

発達障害という言葉聞いたことがありますか？とても広い概念で、正しく理解していただくのがとても難しいように感じます。発達障害の原因は脳の機能にあるといわれており、生まれながらに外界の刺激に対する様々なとらえ方に偏りがあることで、それぞれに色々な生きにくさを抱えることで知られています。

具体的なものとして、①ことばの遅れやコミュニケーションの苦手さ、人との距離感や他者の思いへの歩み寄りの難しさ、興味や関心が偏る、融通がききにくいなど、人と生活する上で困難さが現れる場合（自閉症スペクトラム）②不注意からのケアレスミス、やり遂げることの難しさ、物事の順序立ての難しさ、その他にも落ち着きのなさやとっさに行動してしまうことなども併せ持ち、パフォーマンスの悪い自己像にさらされる場合（注意欠陥多動性障害（ADHD））③見かけ上は普通に生活しているのに、読む、書く、計算する、推論するなど、学習スキルの苦手さから進路の問題や自己評価の低下などを招きやすい場合（学習障害（LD））などがあります。

多くは幼少～学齢期から、特に集団生活の中で課題が見つかる場合が多く、当センター小児科外来でも近隣から多くの相談を受け、療育や医療的支援につないでいます。ほとんどの場合、運動機能に大きな問題がないため一見するとわかりませんが、確実に周囲の理解やサポートが必要であり、本人の良い成長のためにスキルを高めていくことも大切です。

近年、5歳児発達相談をはじめとする健診や特別支援教育という学校を中心とした取り組みがなされ、集団生活で改めて支援が必要であると考えられる人が、適切な関わり合いに繋がり、集団の中で埋もれてしまわないような流れができています。『障害』といいながらも、振り返ってみると、薄い特徴なら誰しも多少なりと当てはまるものも少なくはない…つまり、発達障害も『強い個性』という見方もあります。ですから、皆さんひとりひとりが理解してあげられるものだと個人的には考えています。情報化社会で様々なスタンダードがあふれている時代ですが、人間というバリエーションの中に、その人らしく生きられるように、様々な支援を一緒に考えていくことが我々専門家の役割と認識しています。

◆インフォメーション

○地域連携のための『とちり八病院研修会』のご案内！

この研修会は、当センターの病院スタッフが持っている医療情報などを、障害のある方々を支援する地域の現場の皆様に戻元し、障害のある方々の生活の質の向上や社会参加を促進するのに役立ててもらうことを目的に平成23年度から取り組んでいるものです。

今年度は「ロコモティブシンドローム」をテーマに、当センターの所長、整形外科医師、理学療法士がそれぞれの立場から、地域での寝たきり予防の取り組みに役立ててもらおうと実践的な講話を行います。

- ▼開催日時 平成25年12月2日（月） 13時30分～16時30分
- ▼実施会場 とちぎ健康の森 講堂
- ▼テ - マ 「新国民病“ロコモ”とは？～超高齢化社会における寝たきり予防～」
講師 とちぎリハビリテーションセンターのスタッフ
- ▼対象者 行政機関、介護関係事業所、健診機関等の従事者

○高次脳機能障害巡回相談会（個別相談・予約制）

- ▼日時・会場 下の表のとおり
- ▼内 容 交通事故や脳卒中等により脳が損傷し、新しいことが覚えられない、単純なミスが多くなる、感情のコントロールがうまくいかない等の症状でお困りの方を対象とした相談会です。
- ▼申込方法 電話で、とちぎリハビリテーションセンター高次脳機能障害担当 TEL 028-623-6114

開催日 (申込期限)	会場	対象となる市町	開催時間
10月22日（火） (10月15日)	宇都宮市河内保健センター	宇都宮市	13:30～15:30
10月29日（火） (10月22日)	日光市今市保健福祉センター	日光市	
11月20日（水） (11月13日)	真岡市総合福祉保健センター	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	
11月26日（火） (11月19日)	佐野市中央公民館	佐野市	
12月17日（火） (12月10日)	足利市総合福祉センター	足利市	

○身体障害者巡回相談

- ▼日時・会場 下の表のとおり
- ▼内 容 医療・補装具についての相談、手帳取得や等級変更に関する相談、リハビリ相談など医師（整形外科）とリハビリ専門職が応じます
- ▼対 象 主に身体障害者手帳（肢体不自由）をお持ちの方
- ▼申込方法 開催日の10日前までに、お住まいの市・町の障害福祉担当へ直接又は電話にて（要予約）

開催日	会場	開催時間
10月3日（木）	大田原市保健センター	14:00～16:00
10月17日（木）	栃木市栃木保健福祉センター	
10月31日（木）	芳賀町保健センター	
11月28日（木）	安足健康福祉センター	13:00～15:00

編集後記

今年度最初のとちり八通信を発行します。今年度も読者の皆様に役立つ情報を提供できるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。
まだまだ厳しい残暑が続き、つついアイスやかき氷に手が伸びてしまいます。食べ過ぎてお腹を壊さぬよう気をつけなければいけませんね。

（発行）とちぎリハビリテーションセンター 総務企画課

〒 320-8503 宇都宮市駒生町 3337 - 1
TEL 028-623-6101 FAX 028-623-6151
URL <http://www.rhc.pref.tochigi.lg.jp/index.html>